

令和5年度（2023年度）

京都市立芸術大学 美術学部

入学試験問題

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

目 次

描写	1
描写対象物（画像）	2
色彩	3
色彩解答用材料（画像）	5
立体	6
立体解答用材料（画像）	9
小論文	10
出題の意図、評価のポイント、受験生へのメッセージ （描写・色彩・立体・小論文）	14

2023年度 実技試験問題

科目 描写

時間 9時00分～13時00分

与えられた米袋、金属製ピンチ、プラスチック製ピンチの
特性を活かして構成し、下記の条件に従い、答案用紙に
鉛筆で描写しなさい。

【条 件】

1. 与えられたすべての対象物を、台紙上に構成し描写すること。
2. 対象物は折る、膨らませるなどして良いが、切る、破る、分解するなど、破損をとまなう加工はしないこと。

【注 意】

1. 答案用紙は縦横、裏表どちらを使用しても構いません。
2. 答案用紙と台紙は同じものです。どちらを答案用紙にしてもかまいません。
3. 支給された画材と使用してよいもの以外は机の上に置かないこと。
4. 試験終了15分前に、指示に従いカラーカードを答案用紙に貼りつけること。
5. 試験中は着席し、他の受験生の迷惑とならないようにすること。
6. 忘れた用具の貸し出しはしません。
7. 受験生同士の用具の貸し借りは認めません。

【支給されるもの】

米袋1枚、金属製ピンチ1個、プラスチック製ピンチ2個、
答案用紙1枚、台紙1枚、カラーカード1枚

【使用してよいもの】

カルトン、カルトン用クリップ、鉛筆（色鉛筆は除く）、
消しゴム（練り消しゴムを含む）、羽ぼうき（又はダスティングブラシ）、
カッターナイフ（鉛筆削り用）

【描写：対象物】



2023年度 実技試験問題

科目 色彩

時間 14時50分～17時50分

テーマ「ハケの特性を活かした色彩構成」
下記の条件に従い、答案用紙に色彩で構成しなさい。

※特性とは、そのものだけが持つ性質。特有のすぐれた性質。特質。

【条 件】

1. 彩色は支給された画材（ハケ2本・水彩絵具ポスターカラー8色セット）のみを使用すること。

【注 意】

1. 答案用紙は、表裏・縦横どちらを使用しても良い。
2. 試し描きは構想紙で行うこと。
3. 鉛筆、消しゴム（練り消しゴムを含む）、直定規（60cm以内、目盛付き）は構想および答案用紙の下書きに使用しても良い。
4. 答案用紙に塗りが残しがあっても良い。
5. 支給された画材と【使用してよいもの】以外は机の上に置かないこと。
6. 支給された画材の補充は行いません。
7. 試験終了15分前に、指示に従いカラーカードを答案用紙に貼り付けること。
8. 試験中は着席したまま行い、他の受験生の迷惑とならないようにすること。
9. 忘れた用具の貸し出しはしません。
10. 受験生同士の用具の貸し借りは認めません。

【支給されるもの】

答案用紙（画用紙 大サイズ）	1 枚
構想紙（画用紙 小サイズ）	5 枚
ハケ	2 本
水彩絵具ポスターカラー8色セット	1 組

カラーカード

1 枚

【使用してよいもの】

パレット（又は絵具皿）、鉛筆、消しゴム（練り消しゴムを含む）、筆洗、直定規（60cm 以内、目盛付き）、はさみ、カッターナイフ、カルトン（56cm×40cm 以上）、カルトン用クリップ、雑巾、ボールペン（カラーカード用）

【色彩：解答用材料】



2023年度 実技試験問題

科目 立体

時間 9時00分～12時00分

与えられたコンバイン袋*を**解体**して材料として用い、
「収穫」をテーマに下記の条件に従って
答案用台上に立体を制作しなさい。

* コンバイン袋とは、農業機械で使用する収穫物を入れる袋です。

【条 件】

1. 制作にはコンバイン袋、針金、竹ヒゴのみを使用すること。
2. 支給された制作用材料は必ず全種類使用すること。ただし、すべて使いきらなくてもよい。
3. 接着固定材料として木工用速乾接着剤と、両面テープ、粘着テープのみを使用すること。両面テープ・粘着テープは接着のためのみに使用し、答案を構成する要素としては用いないこと。また、材料の梱包材(袋)なども使用しないこと。
4. 答案は答案用台の上に接着・固定すること。
5. 答案は答案用台（35cm×35cm）を、はみ出さず、また高さは答案用台上面から33cm以上に、はみ出さないこと。
6. 答案用台および答案には描画・着色しないこと。
7. 答案用台は答案を接着・固定する以外は加工しないこと。
8. 試験終了後、答案に触れてはいけません。
各自移動用カバーをかぶせ、答案を持ち体育館の答案提出場所まで移動します。
答案は持ち運びに耐えるように十分な強度を持たせ、答案用台にしっかりと接着・固定すること。

【注 意】

1. 上質紙3枚は、アイデアスケッチ用として使用すること。
2. 試験中は着席し、他の受験生の迷惑とならないようにすること。
3. 作業は支給された灰色ボール紙の上で行うこと。
4. 怪我のないように慎重に作業すること。
5. 忘れた用具の貸し出しはしません。
6. 試験中に受験者同士で用具の貸し借りを行わないこと。

7. 試験終了15分前に、監督者の指示に従い、カラーカードを答案用台の右前端に貼りつけること。
8. 試験終了後、答案に触れてはいけません。答案提出場所に移動後、監督者の指示に従い移動用カバーを外して答案を提出すること。

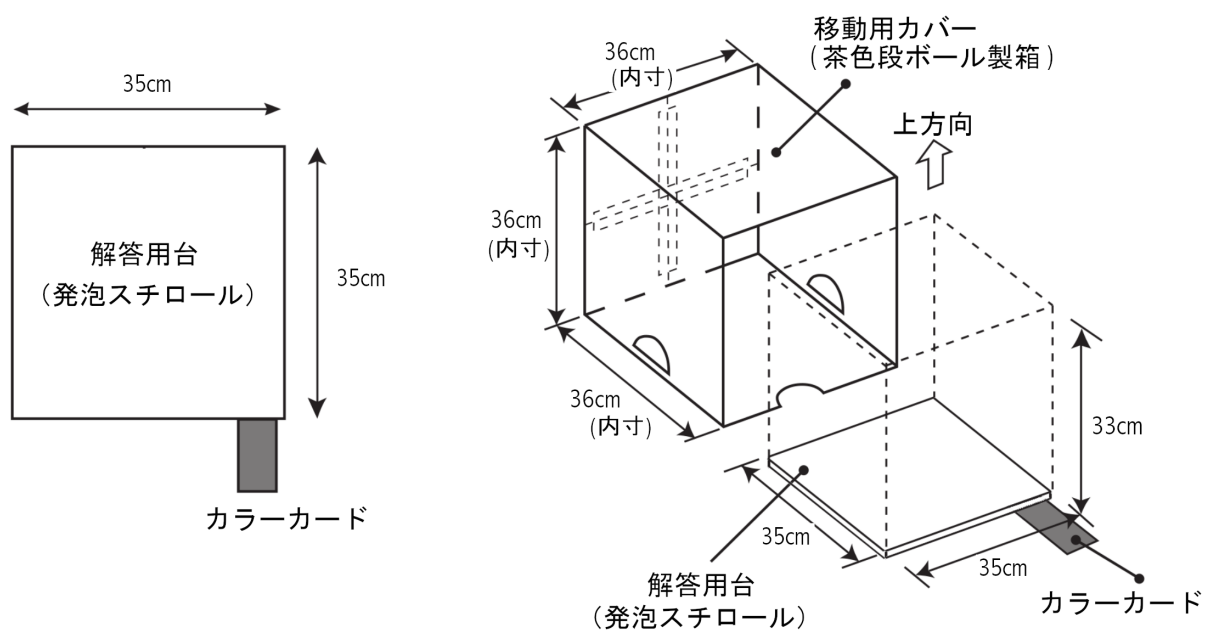
【支給されるもの】

制作用材料 : コンバイン袋 1枚、針金 1巻、竹ヒゴ 1袋(5本)
接着材料 : 両面テープ 1巻、粘着テープ 1巻、木工用速乾接着剤 1個
答案用台 : 1枚(発泡スチロール製 35cm×35cm×1.7cm)
移動用カバー : 茶色段ボール製 箱 1個、カバー固定用テープ 2枚
制作支援用品 : 灰色ボール紙 1枚(作業用)、上質紙 3枚(アイデアスケッチ用)、
カラーカード : 1枚

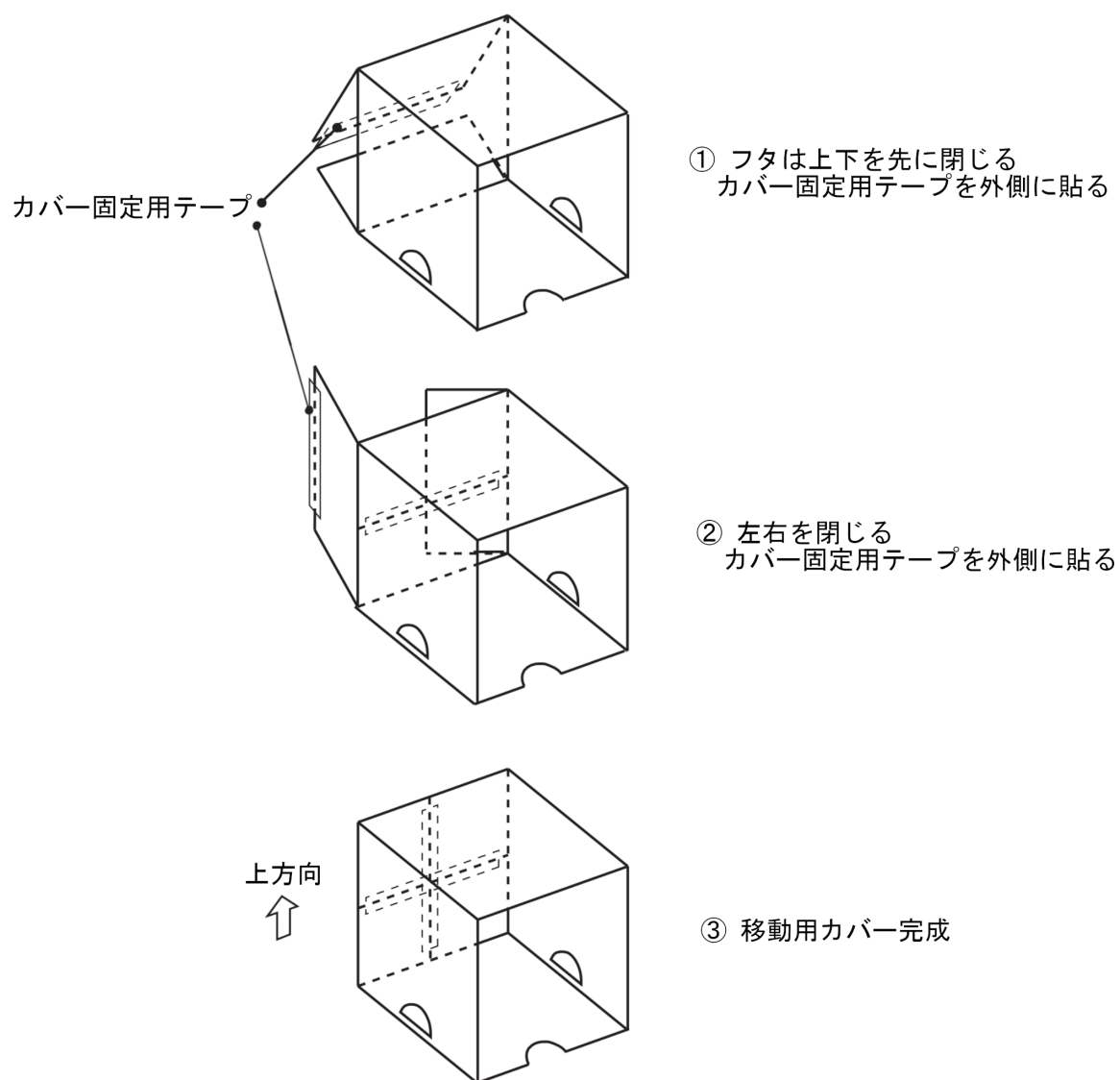
【使用してよいもの】

鉛筆、消しゴム(練り消しゴムを含む)、カッターナイフ、はさみ、分度器、
直定規(60cm以内、目盛付き)、三角定規(30cmのもの1組)、コンパス、
雑巾、粘土ヘラ、ラジオペンチ(刃付のもの)、ボールペン(カラーカード記入用)

移動用カバー 組み立て説明



移動用カバー(茶色段ボール製箱)組み立て順序



【立体：解答用材料】



二〇二三年度 総合芸術学科入学試験問題
科目 小論文（二〇〇点満点）
時間 十四時五〇分～十六時五〇分

別紙の問題文は、近代の彫刻家・高村光雲（一八五二～一九三四）の『幕末維新懷古談』のなかで、皇室の御用として狎（ちん・日本で古くから飼われた小型の愛玩犬）を彫ることになった際の「好（よ）き狎のモデルを得たはなし」（一九九五年岩波文庫・初出一九二九年）である。この文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

設問一

問題文最後の《 一 》には、この文章で高村光雲が言いたかったことと、要約が入ります。どのような内容が入るか推測し、五〇文字以内で記述してください。

（配点四〇点）

設問二

作品とモデルの関係について問題文の内容を踏まえた上で、あなた自身の考えを論じてください。

（配点七〇点）

設問三

この文章を読んであなたが興味を持ったことは何ですか。それについて、更に発展的に掘り下げた調べ学習を行うとしたら、どのような内容と方法が考えられますか。

（配点九〇点）

（別紙は全三ページです）

《注意》

- ・ 答案用紙に受験番号・氏名をボールペンで記入してください。
- ・ 答えはすべて配布された答案用紙に記入してください。
- ・ 答案用紙は、罫線のある面だけを使用し、裏面は使用しないでください。
- ・ 答案用紙は横書きで使用してください。
- ・ 設問一は、答案用紙のマス目に答えてください。
- ・ 設問二・三は、答案用紙の罫線に沿って答え、最初に設問番号を明記してください。
- ・ 追加の答案用紙が必要な場合は、試験監督に申し出てください。その場合、追加の答案用紙にも受験番号と氏名を明記し、1枚目の答案用紙の最後に「2枚目に続く」と書いてください。さらに答案用紙を追加した時も「3枚目に続く」と記すなど、以下同様にしてください。

好き^よ狎^{ちん}のモデルを得たはなし

合田氏のはなしを聞けば、なるほど耳寄りな話である。

合田氏は、私の今使っているモデルの狎を口ではそれと悪くはいわないが、この狎よりも数等^{すうとう}上手^{うわて}の狎がいることを話された。それはツイ先月の話のことだが、合田氏の知人に、徳川家の御側^{おそば}御用を勤められた戸川という方があって、その御隠居が可愛^{めづ}かった一匹の狎があった。それはなかなかの名狎であるのだが、戸川家も世が世で微禄^{びろく}され、御隠居も東京を引き上げ、郡部へ引つ込むについて狎を田舎まで伴^つれて行くのも大儀^{たいぎ}故^{ゆえ}、何処^{どこ}か好い貫^もい手があれば呈^あげたいものというので、合田氏へも話しがあったが、合田氏も狎を飼^かって見る気もないので話はそれ切りになってしまったのである。今少し早かったら、注文通りのお手本があったのに惜しいことをしたという話である。

「どうも、これはあなたが残念がるよりも私は一層残念なことに思いますが、もうその狎は何処かへくれてしまったでしょうか」

私が訊^{たず}ねますと、合田氏は、

「さあ、多分、もう何処かへ縁付いたことと思いますが、ひよっとすると、まだそのままになっているかも知れません。一つ聞いて見て上げましょう。ツイこの御近所^{おからまち}の御徒町四丁目に戸川の親類^{あちものや}が荒物屋をしています、ひよっとすると、其処^{そこ}へ貰^{もら}われて行^いってるかも知れせん。私が手紙を附^つけて上げますから、誰かお弟子^{でし}を使いに上げて下さい」ということになった。

戸川さんの親類の荒物屋というのは、これもお武士^{さむらい}の微禄^{びろく}された方で、荒物渡世をしてどうにかやって行^いかれていますのだと合田氏の話。何はとまれ、狎が其処^{そこ}にいてくれれば好いと、私は国吉^{くにきち}を使いにやった。

「もし、狎が荒物屋にいなかったら、行^いった先を其処^{そこ}で聞けば分ります。郡部へ伴^つれて引^ひ込んだか人にやったか、当りは付きます。その事をよく聞き正して見て下さい」

合田氏はいろいろ注意して下さる。

毎度国さんは御苦労だが、例の中風呂敷を持って出掛けました。近所のことなり、若い者の足で間もなく帰^{かえ}って来た。話を聞くと、狎は荒物屋にはいないということ。

「狎は、もういないのかね」

「ええ、狎は荒物屋にはいません。ですが、四谷^{よつや}の親類の方にいるんだそうです」

「四谷にいと、本当に」

「いるんだそうです。それで荒物屋さんの御主人が、私が附^つ手紙^{てがみ}を四谷へ書いてあげるといって、それを貰^{もら}って来ました。これを持って四谷へ行けば、狎は多分貰^{もら}えるだろうということです。私は直ぐ四谷へ行こうと思いましたが、ちょっとお知らせしてからと思^{おも}って帰^{かえ}って来ました」

国さんはこういいながら立ったままでいる。それがまだ昼前のことで、これから四谷へ行くは大変、お午餐をたべてからというので、早朝食をたべて国さんは四谷へと出掛けて行きました。

国さんは午後四時頃に帰って来た。

見ると、何か嵩張る箱のようなものを背負って、額に汗を掻いて大分疲労れた体である。まだ馬車もなく電車は無論のこと、人力に乘るなど贅沢な生計ではないので、てくてく四谷から、何か重そうなものを背負わされて戻った。見ると四角張ったものは狎の箱で、箱ぐるみ貫って来たという訳、箱だってなかなか手を尽くしたもので、きりぎりす籠の大きいような塩梅に前へ竹の管の千本格子が這入っている。箱を座敷へ上げて中を見ると、動物がその格子の内に寝ころんでこっちを見ておりました。

その動物を見ると私は驚きました。

というのはその権識が実に異います。見ていると気味が悪い位です。その目が素晴らしく大きく鼻と額と附っついて頬の毛が房さり達筆に垂れ、ドロンとした目をしてこちらを見ている所をこっちから見ると、何か一種の怪物のような気もしてどうも変なものだと思いました。

「どうもこれは妙だね」

「どうも妙なものですね」

家のものもそういつて見ている。

私は近寄って箱の蓋を明けましたが、直ぐに飛び出して来ようとしません。寝転んだままで悠々としている処、どうも動物とはいえ甚だ権が高い。

「名は何んというのかね」

「種っていうんだって教えてくれました」

国さんはいつている。

私が「種、種」って呼んで見ますと、やがて、のっそりと起き出て来ました。出たのをよく視ますと、まるで葉茶屋の狎とは雲泥万里の相違で、同じ狎とはいいながら、似ても似つかぬような風采です。のそりと畳の上を歩く音がバサリというように聞えます。バサバサと畳の音がするのです。そうして悠々と四方に人もおらぬといった風に構えている処は鷹揚といつて好いか、寛大といつて好いか、とにかくその迫らぬ態度は葉茶屋の狎のチョコマカと愛嬌あつて活潑なのとは比べもつかぬ。もつとも、この戸川さんから来た狎は大分年老っているので血気旺んというのでないから、その故もあるか、私たちが狎らしい狎だと思ふ種類とは掛け離れたものに見えます。しかし、どっちが好いとも分りません。どっちが好いとも分らないが、戸川さんから来た方は指と爪が長くて、指と指との間に毛が一杯生えてい

る。それが歩くとバサリという。尻尾しつぽの毛は大鳥毛のようで高く巻き上がって房ふたさりしており、股ももの前にも伴毛ともげが長い、胴は短くつまつて四足細く指が長く歩く時はしなしなする。頭が割方わりかた大きく見ゆる。そうして眼は今申す通り度はずれ大きく、どんよりして涙を含んでいるように見えます。それに大きさも葉茶屋の方のよりは一廻り大きく、全体の毛がボツサリしていかにも大々として立派に見ゆる。両ふたつを比べて見ると人間ならば階級の違う人が並んで立っているよう、その相違は不思議な位でありました。

私は今日こんにちまで、葉茶屋の狎なを本当に狎らしい狎だと信じていたのですが、今度の「種」が来て、その権識の高いのを見て、狎というものはこういうものか知らんと思った。それで二、三日は坐敷ざしきに放つて置いていろいろその動作を眺めていましたが、ちよつと手を附ける訳に行かない。彫うって見ようという気になれないのです。それに一方、葉茶屋の方は既に荒ぼりが済んでいる所でありますから、今、どっちへ取り掛かって好いか氣迷いがしてどっちにも取り掛かることが出来ないものでありました。

しかし、また二、三日すると、目に馴染なじんで来て、今度来た方の狎が、どうも本当の狎というものだということが分りました。同時に葉茶屋の方のは、狎と思っていたが、何んだか洋犬かめのように見えて来て、どうも貧弱で、下品で、一緒に並んでいても「種」の方へは寄りつけないように見えて来ました。私もただ愛玩的に狎を飼ったのではなく、名譽な仕事の見本となる生きたモデルでありますから、真剣な態度でいろいろと骨格たいし態姿を一々仔細しさいに観察するのでありますから、物を公平に観ることが出来るのですが、少しも鼻屑ひいきめ目を附けず、「種」の方が全く良種であることに得心とくしんが行きました。

もつとも、狎を見ることに巧者な人に話しても、両方の態姿や動作を二、三点いえば直ぐに「種」の方がずっと上手うわてなのだといひもしますし、見れば一見して「種」の方を好いというのでも証拠立しやうこてられました。

これも後に分ったことですが、畳ざわりのバサツという感じのするのは狎として良種であるのだそうです。こんな塩梅あんばいで一度に二頭の狎を坐敷に置いたようなことで、対比的に自然研究したようなわけで、随分狎ではおかしいほどに細かい処を見たものでありました。

さて、「種」をモデルにしていよいよ彫うることになりました。葉茶屋の方のは一つ出来ましたので、厚く札をいって還かえしました。先方もお役に立って満足とよろこびました。

「種」を手本に毎日鑿のみの数が進んで行くにつけて、いかにも御尤ごようと感じて、彫る上にも氣乗りがして来ました。それで、つくづく私は思うことには、《 一 》。

※ルビは原典に従った他、常用漢字外の字を含む語にも初出時にルビを付した。

出題の意図、評価のポイント、受験生へのメッセージ

➤ 描 写

◆出題の意図

対象物の正確な形態把握や、量感や空間の把握、鉛筆による明暗、色調、質感表現といった基本的な描写力はもちろんのこと、今回の出題では、形を自由に変化させて量感を持たせることのできる米袋と、物をはさむピンチの特性を活かし、いかに積極的に対象物に関わり、意欲的な構成を生み出せるかという、表現に対する強い意欲、構成力を問いました。

◇評価のポイント

以下の項目に留意し、描写力を総合的に評価しました。

- ・積極的な意欲を持って、米袋、金属製ピンチ、プラスチック製ピンチそれぞれの特性を活かした構成、配置ができているか。
- ・配置した米袋、金属製ピンチ、プラスチック製ピンチを効果的に画面に収めることができているか。
- ・米袋の量感を捉えて描くことができているか。
- ・米袋と金属製ピンチ、プラスチック製ピンチの間の距離や関係を正しく描くことができているか。
- ・米袋と金属製ピンチ、プラスチック製ピンチの形や大きさを正しく描くことができているか。
- ・米袋と金属製ピンチ、プラスチック製ピンチの陰影、固有色の明度を正しく描くことができているか。
- ・米袋と金属製ピンチ、プラスチック製ピンチの素材感を描きわけることができているか。
- ・鉛筆、紙、消しゴムなどの描画材を活かして描くことができているか。

■受験生へのメッセージ

今回の対象物は、米袋とピンチという、サイズ差が大きなものです。米袋は比較的自由にその形や量感をコントロールでき、ものをはさむという特徴を備えたピンチは米袋と関わらせることが容易で、お互いの存在を引き立て合う表現も可能です。対象物の特徴を活かし積極的に魅力的な形を探りつつ、構図を練ることが大切です。

米袋の大きさや量感、紙の質感が描けるかという点も、大切なポイントです。一方、金属製ピンチ、プラスチック製ピンチは工業製品としての正確な形が求められます。金属製ピンチは、金属特有の鋭さや硬さに加え、反射や映り込みといった形や色に注意を払いながら描き進め、プラスチック製ピンチは、その色や質感を、他の対象物とよく比較し描き分ける必要があります。普段から対象物の形態や特徴をしっかりと観察した上で、それぞれの表し方に注力しつつ、同一平面上に対象物が置かれている机上の位置関係が自然に伝わるように画面全体の空間のバランスも考慮しましょう。

➤ 色 彩

◆出題の意図

今回の出題では、支給された用具としてのハケから生み出される形や色彩の効果などを発見し、自身の発想をシンプルに構成し伝える、造形力、発想力、構成力など基礎的な能力を総合的に問いました。また限定された 8 色の絵具から混色や濃淡などの工夫をし、それらを効果的に配色する色彩感覚と、多様な描画表現を生み出す能力を求めました。

◇評価のポイント

以下の項目に留意し、色彩表現力を総合的に評価しました。

- ・ 出題内容を的確に理解しているか。
- ・ 支給されたハケの特性をとらえ、多様な描画表現を生み出せているか。
- ・ 色彩学の基本の理解から、混色による豊かな色彩表現ができているか。
- ・ 数少ない絵具から、数多くの色彩を生み出すことができているか。
- ・ 調和のとれた色の組み合わせができているか。
- ・ 与えられた条件の中で自由な発想で意欲的な色彩構成ができているか。
- ・ 限られた時間の中で、計画的に制作できているか。

■受験生へのメッセージ

出題内容を的確に理解し、基本的な色彩の理解と配色の感覚を、支給されたハケの特性を表現に活かしつつ回答できる力を求めました。

支給したハケは、大きな面を塗るのに適しているだけではなく、水を含ませて滲ませたり、混色した絵具を含ませ筆跡を作ったり、角を利用して点や線を描いたりと多様な描法があり、それらの特性を活用することで様々な表現が可能になります。

また、支給した絵具は、水で伸ばして水彩絵具のように使用したり、水分の量を調節して平滑に塗る事もできます。現代では、多彩な色の絵具を手に入れることができます。色彩表現をしていく上では、自身が求める色彩を自ら生み出すことで、豊かで深い表現が可能になります。

普段の色彩表現を進める中で養われた用具や画材に対しての多様な経験と、日常の中で様々なものへ興味を持ち、新鮮な気持ちでものを観てとらえる観察力、与えられた条件を柔軟に楽しむ対応力、イメージしたものを想像して表現する力や発想力を養っておきましょう。

➤ 立 体

◆出題の意図

立体作品の制作には、さまざまな素材の特性を理解し、自身の表現に沿うように工夫して適切に使用する能力が必要となります。与えられたコンバイン袋の構造や特性を観察し、それを解体することで素材として認識しなおす柔軟な発想力、さらに「収穫」と言

う言葉からくるイメージを形にする表現力・思考力を問いました。また、基本的な造形力・構成力・構造や空間把握力といった能力も同時に見ようとしています。

◇評価のポイント

- ・思考力 「収穫」というテーマから発想を展開し、思考を深められているか。
- ・観察力 コンバイン袋、針金、竹ひごの特性を理解し、相互的に活かしているか。
- ・発想力 コンバイン袋を解体し、様々な素材として活かしているか。
- ・造形力 構造や技術が表現したい造形に適しているか。
- ・構成力 設定された条件の空間内に立体作品を効果的に配置・構成できているか。

■受験生へのメッセージ

コンバイン袋という普段見慣れないものを与えられ、さらにそれを解体して材料として用いなさいという問題に、戸惑った人も多かったのではないかと思います。コンバイン袋は平たい繊維で出来ています。それをほぐして糸にまで分解したり、面として使ったり色々な活用方法が考えられます。また、取手やファスナーなどの部品も発想次第では全く違うものになる可能性もあるのではないのでしょうか。これらから素材としての面白さや特性から受けるイメージやメッセージ性など、多様な観点から発想することが大切です。

「収穫」というテーマは、コンバイン袋というコンバイン収穫機用の収穫袋と穀物の収穫を入口とし、私たちの生活に必要な産業（農業、工業、商業など）や、その営みを思い描き、そこから発想や構想することを期待しました。そのようなことは日々の社会への関心と、様々な素材への興味をもつことから生まれるのではないのでしょうか。制作を通して物事を多面的に考える思考力とあらゆる方向に展開できる想像力を養ってもらいたいと願っています。

➤ 小論文

◆出題の意図

設問 1

近代の彫刻家が自らの経験を、聞き手に語りかけている文章です。聞き書きのスタイルなので細部の話題に惑わされずに話の要点をつかみ取ることができるか、基礎的な読解力と記述力を問いました。

設問 2

この文章は彫刻を制作する上で、よいモデルを見極めることの重要性を説いていますが、その主調を理解した上で、自分自身の知識や経験によって分析的、批判的に思考することができるかを問いました。

設問 3

この文章は、研究資料にもなり得えますが、資料として活用するためには、読み手自

身が幅広い興味や好奇心を持っていることが重要です。他者の話から、読み手自身が課題を見出し、柔軟な思考力や日頃の経験に基づいて探究・解決する力、そして言葉で論理的に表現できる能力と意欲を問いました。

◇評価のポイント

設問 1

問題文の内容を的確に把握し、要旨を過不足なくまとめることができるかどうか、要約文が単独で読んでも理解しやすい文章になっているかどうかという観点から評価しました。

設問 2

本文の要旨を踏まえた上で、テーマの本質を自分なりに熟考し、自身の考えを論理的に文章にまとめることができているかどうか、自らの知識と照合しながら他者に伝わるように記述できているかどうか、という観点から評価しました。

設問 3

本文の中から、自身が興味関心を持って更に探求してみたいテーマを発見する発想力と、またそれをどのような方法で展開しようとするのか、それをどのように説得力を持って論理的に論述できているか、という観点より評価しました。研究には様々な視点が不可欠ですので、興味の対象は必ずしも本文の中心的な内容でなくてもかまいませんが、具体的かつ説得力のある文章であることが大切です。

■受験生へのメッセージ

総合芸術学科で学んでいく上で必要になるのは、何といても芸術や創造行為に対する強い興味と関心です。日頃から社会の様々な事象に対して幅広く関心を持ち、多様な立場や意見を理解しようとする開かれた態度を培ってもらいたいと思います。

そして小論文試験においては、問題を的確に読み解き、根拠のある事例に基づきながら、自らの考えを伝えることを求めています。限られた時間で十分に説得力を持たせることのできる論理的な文章を執筆する経験も重ねてみてください。また、日頃の態度が、与えられたテーマに対する柔軟な応用力と、具体例の豊かな引き出しとして発揮されることを期待しています。

2023 年 4 月

京都市立芸術大学 事務局 入試担当

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6

Tel 075-334-2238

Fax 075-334-2281

<https://www.kcua.ac.jp>